

事務事業名	御殿場のまつり支援事業	整理番号	43303-010
所 管	商工観光課 観光スタッフ		

事務事業の位置付け

期間	平成 12年度 ~ 平成 年度	根拠法令・要綱等	
基本計画における位置付け	基本政策 4-3 観光・集客による産業の活性化 政策 4-3-3 観光産業と他の産業などとの連携	関連政策	4-3-1 観光・集客体制の強化

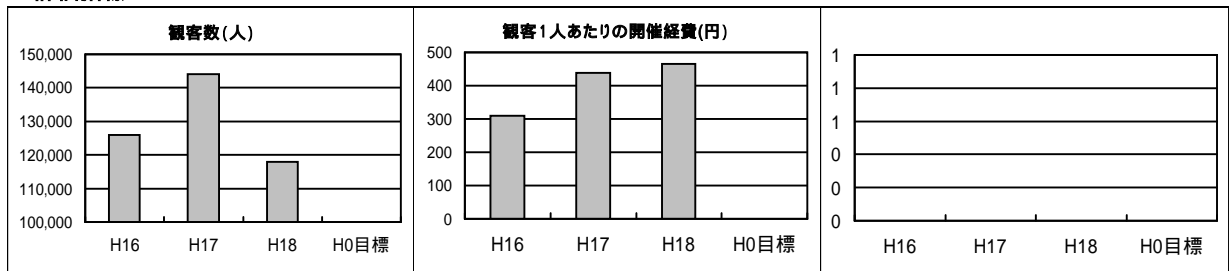
事務事業の内容

目的 (何のために)	経済活性化と観光施策の充実を図るため。
対象 (誰・何を)	市民及び観光客
手段 (どのようなやり方で)	まつりを運営する各実行委員会を助成・支援していく。
成果 (どのような状態にしたいか)	賑わいと活気あふれる御殿場・明るくさわやかな高原都市御殿場を内外にアピールすることができる。集客力の向上ができる。
事務事業の背景・住民の意向	桜まつり、花火大会等新たなまつりへの多様な期待に応える。商店街との調整から、開催場所について、まだまだ理解が得られていない。
見直し改善の経過	桜まつり・花火大会を新たに開催した。

事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)
平成16年度	観客数 御殿場桜まつり11,000人、富士山太鼓まつり21,000人、歩行者天国66,000人、よさこい御殿場28,000人、東富士高原まつり花火大会中止、合計126,000人	
平成17年度	観客数 御殿場桜まつり8,500人、富士山太鼓まつり27,000人、歩行者天国68,500人、よさこい御殿場15,000人、東富士高原まつり花火大会25,000人、合計144,000人	
平成18年度	観客数 御殿場桜まつり18,000人、富士山太鼓まつり17,000人、歩行者天国50,000人、よさこい御殿場18,000人、御殿場高原花火大会15,000人、合計118,000人	

評価指標



事務事業の評価

観点別・一次評価(担当部署の評価)		コメント	
観点別評価	必要性	伝統になりつつある祭り、新しい祭り、市民を中心とした祭りなど、さまざまな祭りを行い市民を中心に喜ばれている。	今後の方向性
	有効性		
	効率性		
一次評価	B		継続
二次評価(行政評価委員会の評価)		コメント	今後の方向性
二次評価	B	実行委員会の自主・自立度を高めるよう努められたい。	手段改善

改革プラン

平成19年度からの対応	各祭りの強み、弱みを分析し、内容を検討していきたい。
平成20年度以降の対応	各祭りの充実を図る。
改革により予想される成果	さらに、効果的で、コストを減らした活動が可能。